

行いました。歯科技工の作業の手順をパネルにした物や、サンプル模



型を展示して、日頃人目に触れる事のない歯科技工とはどういった仕事なのかという点について、来場者の皆さんに理解して頂きました。そして、平成23年2月20日、同じく上越市市民プラザにて、奥森健史先生を迎え、デンチャーワーク新時代の機能と構造力学、学術講演会を行いました。高齢化を支えてきた欠損補綴の基礎となるパシーナルデンチャーを機能・構造力学・マテリアルという三点を中心にごのようにして補綴治療の永続性を求めて行くかについて講演して頂きました。



貴重な奥森先生の講演会という事もあり、上越支部以外からのご参加も多く特に若い技工士さんの姿が目立っていました。これからも積極的な活動を目指して行きますので、会員もごも上越支部をよろしくお願ひします。

下越支部

平成22年度は、若手ががんばりベテランがサポートする体制づくりの一年でした。総会に始まり、6月に新発田歯科医師会と共に手形作り奉仕、10月に若手プロデュースによる「古民家で語るうばりベキュー大会」を阿賀野市スカラベ庵にて行い、11月には山本金属の新しいハイブリッドセラミック「ツィニー」の勉強会をいち早く行い、



12月には、松風人工歯ベラシアS Aの機能的配列を戸田篤先生を迎え、明倫専攻科、他支部の皆様にも参加をしていただき行つことが

出来ました。そのほか名古屋歯科技工士学会へ10名あまりを派遣、など木戸支部長を中心に活発に活動しております。去る2月4日土曜日、月岡温泉 広瀬館にて新年会を開催しました。若手の活躍に刺激され熱く盛り上がった会となりました。当支部は、いつでも誰でもウエルカムですので皆様の参加をお待ちしております。



この手で守る自然と資源

きめ細やかな営業ネットワークで、全国をカバーいたします。

- 貴金属リサイクル
- 医療用廃棄物の無害化処理・リサイクル
- 処理実績報告書の作成サポート
- 電子マニフェストシステム対応

「個別管理システム」が実現した
業界 No.1 の実績

ISO14001・ISO9001取得



(社)日本金地金流通協会 正会員

ASAHI PRETEC

■ご連絡はこちらまで
新潟営業所 〒959-1151 新潟県三条市猪子場新田282-4
TEL (0256) 45-5561 FAX (0256) 45-5622

アサヒホールディングス株式会社 東証一部上場:5857

アサヒプリテック株式会社

東京本社 貴金属事業部
〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12 サビアタワー
TEL (03) 6270-1831 FAX (03) 6270-1825 URL <http://www.asahipretec.com>
■営業所/札幌、青森、仙台、新潟、北関東、関東、横浜、甲府、静岡、名古屋、北陸、大坂、神戸、岡山、広島、福岡、鹿児島、沖縄

第十一回日本歯科大学新潟病院 歯科技工研修科公開講演

去る平成二十二年十月三十一日、日曜日、日本歯科大学新潟生命歯学部アイヴィホールにおいて、「第十一回日本歯科大学新潟病院歯科技工研修科公開講演会」が開催されました。

今回の講演会では、歯科技工書籍としては異例のベストセラーにもなった『一週間でマスターするキャストパースャル』等でおなじみの有ユニテント代表 川島哲氏、またインプラント等を中心に多方面でご活躍中のイイノ歯科医院院長 梶岡宣好氏をお招きしご講演頂きました。

まず川島哲氏のご講演では、「永続性のある義歯の基本的な設計」について詳しく解説され、欠損補綴に永続性を求めるために最も重要な点は生体センサーを機能させる事であると述べられました。例として、「レストに欠損部の咬合負担を伝達すると、その力は歯根膜へとつながり、その歯根膜の生体センサーが神経を通して脳へ情報を伝える事により、咬合力が過剰にならないように脳が咀嚼を制御している。」というメカニズムを分かりやすく説明されていました。その上で、レストは咬合圧を歯根膜センサーに伝えるための大切な装置でありながら、多くの場合基本的な設計がなされていないという現



状を踏まえ、レスト座の理想的形態については歯軸方向へ垂直に力が加わるようスポン状に掘ることが重要であり、そのことが守られなければ歯牙は移動してしまい、結果として歯牙の永続性を図ることが出来ないなど注意点多話されていました。

さらに義歯を製作する際に最も重要な点として、義歯を製作している歯科技士自身が義歯を使用しているケースが稀であることから、「患者の身になって痛みを想像しながら製作する」ということ、そして義歯のデザインとは患者に好まれるデザインを嗅ぎあてる作業であること、また適合とは模型に合わせることでなく、身体への適合、心への適合であるということ、などを挙げられ、改めて認識させられるものがありました。

続いて梶岡宣好先生のご講演では、これからはキャストパースャルデンチャーとインプラント等を融合した『ハイブリッドデンチャー』が必要とされる時代となるのではないかと、この私見を述べられました。『オーバーデンチャー』では生体センサーが働かないため強い咬合圧が加わることになり、残存歯

牙が少数の場合歯根骨折を起こす危険性もある。よってすべての解決策がインプラント治療ではない。」と説明



された上で、粘膜センサーや歯根膜センサーを利用してきるハイブリッドデンチャーの可能性について述べられ、歯牙の永続性を図るためには、歯肉、歯槽骨の状態、咬合圧など総合的な判断によって欠損補綴の種類を決めることの重要性を詳しく解説されていました。

今回の講演を通じて、両氏の歯科医療への取り組み方や義歯に対する強い情熱を感じるとともに、日々前進し続けている姿にとっても感銘を受けました。

日本歯科大学新潟病院 小林直子